

第5学年 国語科学習指導案

川崎市立荻宿小学校 授業者:松本 洋平

1. 日時・場所 令和4年1月19日(水)5校時(13:20~14:05) 5年3組教室

2. 単元名 説得力のある提案をしよう「提案しよう、言葉とわたしたち」 3/6時間

3. 単元について

(1) 単元目標

◎話の内容が明確になるように事実と感想、意見とを区別するなど話の構成を考えることができる。

◎資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。

(2) 指導事項と評価基準 A話すこと・聞くこと

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている(1)ア ・思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し語彙を豊かにすることができる(1)オ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている A(1)イ ・「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫しているA(1)ウ 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り強く話の構成を考え、学習の見通しを持って、提案するスピーチをしようとしている。
情報活用能力 チェックリスト GIGA版 ステップ2	⑦写真や図や文章のレイアウトを考え、見やすさを考えたスライドを作ることができる。	⑳自分の考えが伝わるように、資料を活用するなど、表現を工夫することができる。	㉔伝えたいことが、受け手にきちんと伝わっているか、自分の発表の仕方を振り返るようにしている。

(3) 本単元について

本単元を通して子どもたちが事実と感想、意見とを区別し、意識して相手に伝えることで説得力のある提案ができるようにしたい。また、最も伝えたい内容を明確にするようにし、相手意識をもって、話の構成を考える力も身につけさせていきたい。

資料を活用して伝えることも大切である。資料を用いる目的は、言葉だけでは伝わらない説明の補足や伝えたいことを強調することである。構成に合った内容になっているか指導する。

まず、自分の提案について根拠となる情報を集める。次に、その根拠をもとに構成を考える。最後に、グループで1人1発表を行い相手に伝わる提案をする。この活動を通し、目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせる表現し、聞き手とのやりとりを含めて効果的に表現するという情報活用能力のねらいも意識して取り組みたい。

(4) 児童について

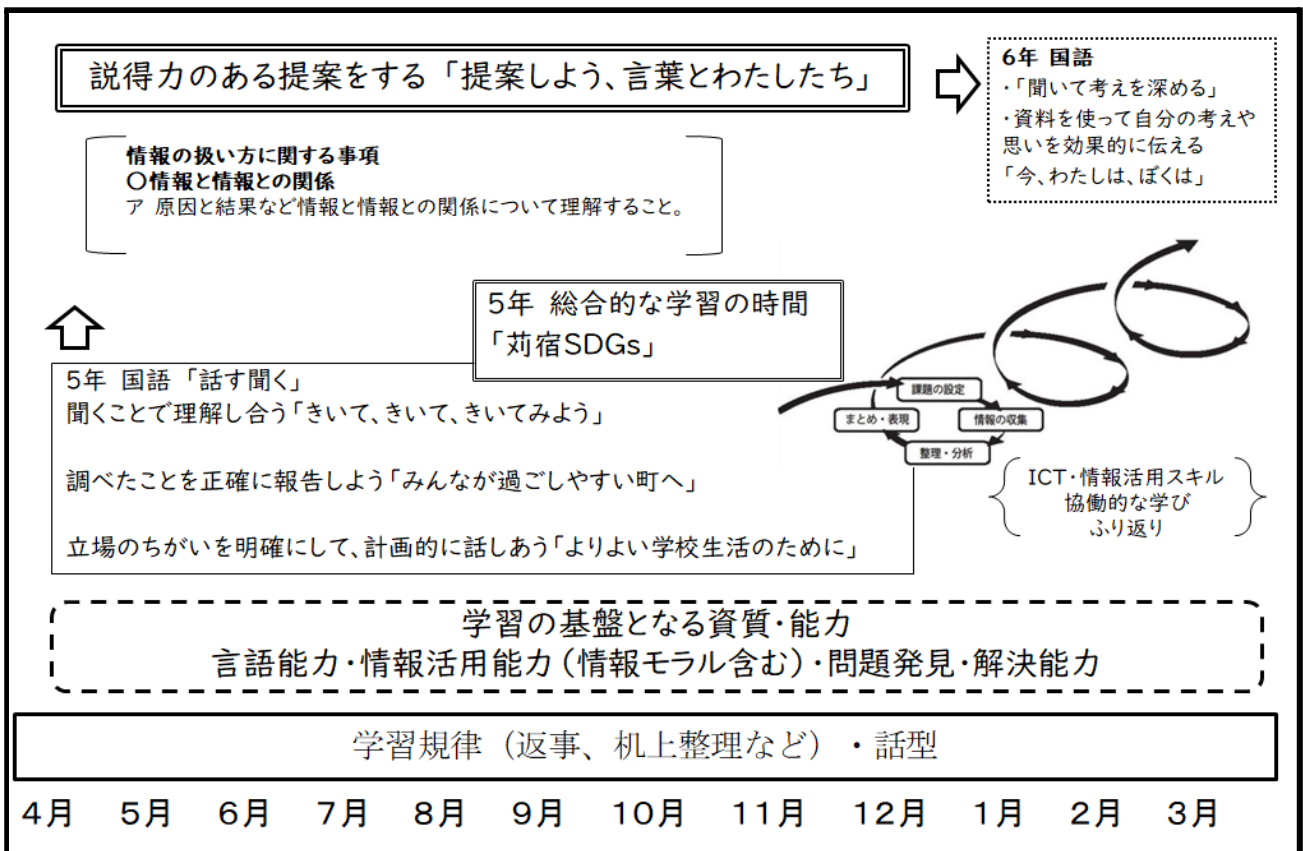
(省略)

4. 研究テーマに迫るために

研究テーマ
自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして
～情報活用能力を育てる授業デザイン～

情報活用能力の育成には、各教科等の学習と共にICT活用等を取り入れながら教科横断的な視点で授業づくりをしていくことが必要である。それは、学習指導要領で示されているように「どのように学ぶか」という学びの質を重視した授業づくりを進めていくことである。また、自動の学びが深まっていくためには学びの中で各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることも鍵となる。さらに自らの見方や考え方をふり返ったり、問題解決する過程において情報を多角的に捉えていくことや自らの学びや考え方を多面的に見直すことができる児童の姿を目指していきたい。

単元の関連について



(1)「学習過程」との関連

各教科等を横断的な視点で捉え、資質・能力を育むための基盤として学習の過程を児童が意識することが大切であると考えた。国語科においても学習指導要領には資質・能力を育成するためには「児童生徒が課題を追究したり解決したりする活動の一層の充実が求められる。それらは、習得した知識や技能を活用して調べたり、思考・判断したり、表現したりしながら課題を解決する一連の学習過程において、育成されるものと考えられる」と述べられている。「A話すこと・聞くこと」領域の構成は「話題の設定」「情報の収集」「内容の検討」は共通する指導事項である。また、総合的な学習の時間では「探究的な学習における児童の学習の姿」として「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という一連の学習過程を示している。この「探究的な学習過程」を各教科等の探究的な学習に限らず問題解決的な学習をする過程に当てはめられると考えた。

この「学習過程」は各段階で「ICTの活用スキル」や「情報を活用するスキル」を発揮することで資質・能力である情報活用能力も育ていくのではないかと考える。さらに各教科等の見方・考え方を働かせた「見通し」をもつことや協働的な学びが主体的・対話的で深い学びにつながるのではないかと考えた。

また、1時間という短期的な学習過程や単元全体といった長期的な学習過程で何度も繰り返し行なったり、一つの段階を重点的に扱いその都度振り返りを行ったりすることで資質・能力が育まれていくのではないかと考える。

(2)ふり返りについて

各教科では、学習計画を単元ごとに作り、見通しをもって取り組めるようにした。その結果、話し合い活動では、課題に沿ってグループで相談したり、司会の役割を立てファシリテーションしたりするなど主体的に活動することができた。主体的に学習に取り組む態度の観点では、「粘り強く～」という用語が使われるが、繰り返したり、試行錯誤したりして取り組む児童の様子を想定している。本単元でも取り組む振り返りでは、見通しをもって取り組むために必要な課題や問題点を自分ごととして捉えられるよう、Googleドキュメントソフトを使用し、ポートフォリオを作成した。何ができた・できなかったのかだけでなく、どのようにしたかったのか、なぜ考えたのかなど、その都度コメントをつけて価値つけていくことで、進んで活動することができると思った。また、今回はGIGA端末を使用することで、動画や写真、友達の作成した資料など、素早く振り返りに活用することができるため、デジタルのポートフォリオを活用している。

(3)本単元で活用する放送番組について

本単元ではNHK for schoolの『わかる国語 読み書きのツボ 5・6年』と『お伝と伝じろう』という2つの番組を活用した。『わかる国語 読み書きのツボ 5・6年』は、ゲームやクイズをしながら筋道を立てて伝える力や、文章から必要な情報を読み取る力を身につけることをねらった番組である。また『お伝と伝じろう』は、人に何かを伝えたり人から話を聞いたりするときに大切なことや具体的な方法を、ドラマを通して感じ、学ぶことができる番組で、川崎市内の学校でもよく活用されている。これらの番組の視聴を単元の学習活動に取り入れることで、児童が自分の収集した情報や考えを整理する場面や、学びの見通しをもち、主体的に活動するための支援に繋がりたいと考える。

5. 指導計画(全6時間)

次	時	学習活動(○)	指導上の留意点(・) ICT活用場面(◆) ツール〈 〉	学習過程	評価基準【 】 評価方法[]
第1次	1・2	○「提案の方法」を知り単元の学習課題を設定し学習計画を立てる。 ○スピーチのイメージをつかむ。	・総合的な学習の時間を継続することで、見通しを持って取り組めるよう、話題を集めておくなどの準備をする。 ◆〈jamboard〉 ・番組を視聴し、スピーチメモを作るイメージを持てるようにする。 ・伝えたいことを整理できるように、必要な観点をまとめるようにする。	課題設定	【態】 学習課題をとらえ各種計画を立てようとしている。 [発言・記述]

第2次	③	○スピーチしたい内容を観点ごとに分ける。 (本時)	・総合で調べた内容から、伝えたいことを選ぶようにする。 ・事実と感想、意見に分けられるようにする。 ◆〈スライド〉 ◆〈jamboard〉	情報収集	【知】 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている [発言・記述]
	4	○スピーチの進め方を知る。	・伝えたい内容を全て書き出し、最も伝えたい内容を整理する。 ・提案の型に沿って内容を記入する。 ・事実と意見感想を区別して話すことが重要であり構成の面でも気をつけるようにする。 ・グループで発表し合い、良いと考えた提案を決める。	整理・分析	【思】 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている [発言・記述]
	5	○スピーチの練習をする。	・スピーチの練習を動画で記録し、友だちに伝わる表現の工夫ができているか確認する	まとめ・表現	【態】 粘り強く話の構成を考え、学習の見通しを持って、提案するスピーチをしようとしている。 [発言・記述]
第3次	6	○スピーチを聴きあって感じた事を伝え合う。 ○単元の学習を振り返る。	・提案する時に提示する資料となりそうな情報も合わせてスピーチする。	まとめ・表現	【思】 資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫している [スピーチの動画] 【知】 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し語彙を豊かにしている [発言・記述]

*総合的な学習の時間の指導計画(25時間)

次	時	学習活動(○)	指導上の留意点(・) ICT活用場面(◆) ツール〈 〉	学習過程	評価基準【 】 評価方法[]
1	1~8	○苅宿の町は「住みやすいのか」「住みにくいのか」自分の考えを主張しよう ○自分の主張に沿った根拠を調べる ○集めた資料の中から、もっとも自分の主張に合うものを選ぶ ○苅宿の町に対する主張	・苅宿の町を調べたことから、よりよくするためにできることを調べる ◆根拠になる材料を集める 〈スライド〉 ・保護者や異学年、地域の人へのインタビュー活動 ・国語「あなたはどうか考える」 ◆意見を分析する 〈jamboard〉	課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・表現	【思】 ・地域の問題について分かったことや気づいたこと、疑問点から課題を設定している。 【知】 ・地域の問題について現状や課題を理解している。 ・自分たちにできることは何かを理解

		の交流をする			している。
2	9～ 20	<p>○苧宿の町を良くするために、自分たちにできることをクラスに提案しよう</p> <p>○苧宿の町をより良くする提案のテーマを考える。</p> <p>○提案のテーマにつながる根拠を調べる</p> <p>○クラスで取り組む内容を提案し交流する</p> <p>○提案内容を実践する計画・準備をする</p> <p>○活動内容を振り返る</p>	<p>・前時の交流を踏まえてクラスで活動する内容を提案する</p> <p>・国語「提案しよう」</p> <p>◆提案する構成を整理する〈jamboard〉</p> <p>◆提案材料を集める〈スライド〉</p> <p>◆スピーチを見返して練習する〈カメラ〉</p> <p>・活動や提案に対してふり返る。</p>	<p>課題設定</p> <p>情報収集</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ・表現</p>	<p>している。</p> <p>・環境を守ろうとしている人々の取り組みを理解している。</p> <p>【態】</p> <p>・環境を守ることの大切さに気付き、自分のできることを考えて実践している。</p> <p>・環境問題を解決するための活動をふりかえり、これからの自身の生活に生かそうとしている。</p>
3	21～2 5	<p>○SDG`sについて課題を立てる</p> <p>○より良い苧宿になるために、自分にできることをまとめる</p>	<p>・ゲストティーチャー「イマココラボ」</p> <p>◆今までの学習を振り返り自分にできることを整理する〈jamboard〉</p> <p>・国語「より良い学校生活」</p>	<p>課題設定</p> <p>情報収集</p> <p>整理・分析</p> <p>まとめ・表現</p>	

(1) 目標

話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別しようとしている(思・判・表)

情報活用能力ステップ2

①自分の考えが伝わるように、資料を活用するなど、表現を工夫することができる。

(2) 展開

主な学習活動 予想される児童の反応「 」	支援(・)評価【 】評価方法【 】 ICT活用場面(◆)とツール(く)
1 本時の課題を把握する	
2 総合で調べた「提案」 「根拠」(写真などの資料)(事実) 「提案したいこと」(意見) 「振り返り」(事実・意見・感想)	<p style="text-align: center;">事実と感想、意見を区別して説得力のある構成を考えよう</p> <p>必要な資料があることを確認し、事実と感想、意見の分け方について確認する ◆(スライド)</p>
3 事実と感想、意見をメモにする	<ul style="list-style-type: none"> 調べた内容を書き出す。 ◆(jamboard) 事実と意見と感想に分けるようにする スピーチメモにならないよう、付箋に書き出すようにする
4 グループで構成を見合い、事実と意見、感想に分か れているかを考える	<ul style="list-style-type: none"> グループの進捗によって、話し合いの時間や作業の時間は決めず、構成が考えられるように配慮する 友だちの構成と比べ、整理して考えられるようにする
5 まとめた提案内容について、説得力のある・ない所を話し合 う 「内容につながりがあるって、説得力があると思った。」 「事実がたくさんあって意見がよく分かった。」 「感想ばかりだと、説得力に欠けると感じた。」	<ul style="list-style-type: none"> どのような提案の構成がよいのか、児童の作品を例にして、全体で共有できるようにする <p>・事実と意見、感想の区別ができたか、振り返るようにする。</p>
6 振り返る 「事実と意見、感想に分けることで、説得力がある構成になっ た。」 「(意見、事実、感想)に偏ってしまったから、構成を考え直した い。」	<p>【思】 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えている [発言・記述]</p>